

歌と写真で綴る薩摩の脇道 －歌三昧の史跡巡礼，その5-2－

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル
鹿児島大学 名誉教授
加治木温泉病院
県立大島病院

栗 博志・高田 昌実・萩原 隆二
納 光弘
夏越 祥次
栗 隆志

[6] 薩英戦争，3つの砲台跡

現在，鹿児島市街の海沿いに，天保山，新波止，祇園之洲の3砲台の史跡がある。

(1)新波止砲台は，1846（弘化3）年，防波堤として築造。1854（安政元）年，斉彬が砲台に改修。弁天波止砲台と共に，鶴丸城の正面にあり，主力砲台であった。

明治，大正，昭和に大改造が行われ，現在は水族館（いおワールド）になっており，その周辺に当時をしのぶ事ができるが，どれが当時のものか判断する事は，困難である。

図182で右上が「いおワールド」。「いお」は魚の意。下に広がる運河が，イルカの泳ぐ水路で，かまぼこ型の堤に，イルカの出入口があり，その頂点に大正14年建立の「奮薩藩砲臺跡の碑」が，小さく見える。

左上が，桜島フェリー乗り場。

写真中央の林の中に，砲台跡が並んで配置されている。林の向こう，海を越えた所が，祇園之洲，多賀山（図181参照）である。

図183は，水族館側からみた砲台跡の碑である。堤のあちこちの石には，工事に従事した人達の文字や屋号が刻まれている。

図184の松の右側に小さく見える，3つのコンクリート部が砲台跡である。新波止には11台の砲台があった。コンクリート部の周囲は，一列の石が円形にとり囲んでいる（図185）。その海側の先端に「明治天皇行幸所船形臺場」の碑がある。ここが当時の船着場であった事が分かる。よく見ると，木々の向こうに，青と白色のフェリーが見える。



図182 新波止砲台跡

中央の森の中が砲台跡。かまぼこ型の堤の頂点に砲台跡の碑がみえる（赤い服の係員の右）。



図183 奮薩藩砲臺跡の碑

ただ理解できないのは，砲台跡が桜島に面していず，祇園之洲方向を向いている事である。推測だが，過去の改修時に移設したと思われる（図185）。

図186は，砲台跡に沿って入港するフェリーで，砲台のすぐ横を通る（図181参照）。

図187は，図182に連続する長い堤防である。



図184 新波止砲台跡

松の右側にコンクリートの砲台跡がある。その先に「明治天皇行幸船形臺場」の碑。



図186

新波止砲台跡に沿って入港する桜島フェリーと桜島。



図185 「明治天皇行幸所船形臺場」の碑
手前が砲台跡の1つ、円形に敷石がとり囲む。



図187

新波止砲台跡から水路に沿って延びる堤防。

中程に施設跡があるが、用途は不明。

現在、フェリー利用者や、いおワールドの来客は多いが、ここが江戸末期に、日本の一藩が、大国のイギリスと激戦を交えた地と知る人は少ない。

295 新波止の激戦の跡 いお世界

296 新波止の 黒船の影 今フェリー

297 あり通ふ 薩摩^{さと}の郷は海^{あまた}近み 数多の人の乗れる船みゆ

298 錦江の鏡を照らす朝^{あした}の日 昔と変わらず輝けるかな

299 朝日照る 錦江湾を今見ては 何時^{いつ}かまた来て 在りし日偲^{おも}はむ

300 砲臺に ありたる人も吾^わが如^{ごと}か 桜の島を眺めせしけむ

301 古^{いにしへ}の戦の跡 年深み 心留^{とど}むる人は少なし

(2) 祇園之洲は、稻荷川河口の八坂神社(祇園社)に由来する(図188)。

ここは遠浅の干潟で、第10代藩主斉興^{あき}の藩政改革の一つとして。家老調所^{しやうじよ}広郷により、

兵の屯集所として埋め立てられ、その後、斉彬が砲台を設置した。

150ポンド砲1門を含む、6門の大砲が配備された(図179参照)。

戦闘では、英艦レースホースが眼前で座礁したが、救援の英艦による、高性能のアームストロング砲の集中砲火を浴び、砲台がごとく破壊されたため、攻撃できず、この艦の救出を見送るのみであった(図180参照)。

現在、激戦の痕跡は無いが、高さ1.2mの苔むした胸壁が、長さ115mに亘り遺っている(図189)。

胸壁の石垣の外側は、歩道になっている。薩英戦争後、胸壁は修復されたと言われる。

砲台跡の石碑には「舊薩摩砲台跡」と刻まれている(図190)。

碑のすぐ向こう側は、胸壁に沿って、稲荷川の分流が流れ、石碑のすぐ左手に、移設された玉江橋が架かっている。

砲台跡から、埋立地の向こうに、桜島を望む事ができる(図190)。

長い苔むす石垣のみが、昔をしのばせる。

302 激戦の跡片はなし 時流る 今は苔むす石垣遺る

303 川流る 激戦の跡 川と流るる



図188 祇園之洲の由来となった八坂神社

304 稲荷川 苔むす石垣 夢の跡

(3)天保山(砂揚場)砲台跡は、鹿児島市の中央を流れる甲突川の河口にあり、錦江湾越しに桜島を望む(図191)。

琉球貿易を通じ、斉興は海防の重要性を認識し、天保年間に川砂を使い、砂揚場を造成し、1850(嘉永3)年、砲台を設けた。後に、それを斉彬が改修した。

現在、素晴らしい松並木とグラウンドのある天保山公園となっている。

砲台の遺構としては、最もよく保存されている。松林に埋もれそうではあるが、反ってそれが郷愁を誘う(図192, 193)。

天保山の松は、私がこの地に来てからでも、



図189 祇園之洲砲台跡の碑
碑の前(土台)の石垣が胸壁。



図190 「舊薩摩砲台跡」の碑

既に50年以上を経ている（図194）。松並木には、松ぼっくりが沢山落ちていた。

305 夕暮れに 砲台の跡 松林

306 我見ても ^{い そ と せ} 五十年なりぬ浜の松 在りし
日眺め 経るや幾年

307 夕暮れの ^{のこ} 浜に遺れる砲台の ^{さみ} 跡寂しき
や 秋風ぞ吹く

308 薩摩の海 ^み 浪高まれる冬の日の 松に昔
を聞かましものを

309 天保山 砲台跡の松風の 声に昔を思ひ
つるかな

薩英戦争の歴史的火蓋が、正にここで切つて落された。

昔の事を思いつつ、薩摩が、国難を乗り越えたように、現在のコロナ禍の苦難を乗り越えるように、松林の沢山の松ぼっくりを数えながら、私共と医師会会員、事務局の皆様方と、その御家族様全員の、健康と長寿を祈念する事としよう。

310 ^{わた つ み} 渡津海の錦江湾の砲台の ^{あまた} 浜に昔を偲び
つつ 道に落ちたる数多なる 松笠数へ
^{みなひと} 皆人の ^{よわひ} 此の世の ^あ 齡の ^{かず} 有り数にせむ



図191

天保山（砂揚場）砲台は、甲突川の河口に造成された。



図193

「天保山砲台跡」の碑の場所が一つの砲台のあった所。



図192 今は松林になった天保山砲台跡
石垣などが保存されている。



図194 天保山公園の松並木
並木の右側がグラウンド、その右手に砲台跡がある。

[7] 薩英戦争記念碑

フビライ・ハーンの大蒙古帝国（元朝）と高麗による元寇、即ち1274（文永11）年の文永の役と、1281（弘安4）年の弘安の役は、当時、世界最大規模（特に後者の兵力は、50万人以上）の艦隊による日本侵攻であったが、日本は見事にこれに勝利・撃退した。

薩英戦争は、その582年後の史上2度目の日本国内での正面切つての、外国軍との戦争であり、世界最強の英艦隊を、日本の一藩が、上陸させる事なく退却させた、日本史上、極めて意義深い戦争であった。

図195の大きい「薩英戦争記念碑」は、祇園之洲公園内の、祇園之洲砲台跡の碑の左手すぐの所にある。

この碑は、1917年に物産陳列所（現・県立博物館敷地）に建立され、1931年、県立図書館建設の為、現在地に移設された。

碑文の揮毫は、第4代総理大臣松方正義。

碑の頂上に注意して頂きたい。

枝若若干見づらいが、柄の長い、閉じた和傘のようなものが立っている。

これは、関ヶ原の戦いで孤立し、退き口、捨て^すがまり^{がまり}奸戦法で、家康本陣左翼前方を通過し、正面突破した義弘、即ち、島津家の御馬印の「一本杉」を表わしている（他説あり）と言われる。

なお、図の右下には、稻荷川分流に架かっている、移設された玉江橋を認める。

碑の前には、見事な枝ぶりの松の大木があり、鳥が鳴き、桜などの樹木が繁る。

石碑の上の「一本杉」が、この古戦場、錦江湾、桜島、更にはその彼方の大海、そして新しい時代を、当時の人になりかわり、見据えているように思える。のどかである。

311 祇園之洲 川は流れて 鳥の啼き 桜花
咲き 松風ぞ吹く



図195 「薩英戦争記念碑」
碑のてっぺんに「一本杉」が立っている。右下に玉江橋が見える。

薩英戦争の翌年、1864（元治元）年に薩摩藩は、開成所を設置し、英語や先端技術教育を開始。

1865（慶応元）年に、使節団を含む19名の英国留学生の派遣。

1866（慶応2）年には、6名の米国留学生を派遣した。

1867（慶応3）年には、「薩摩太守政府」として、第2回パリ万国博覧会に出展。

深々と眠れる国の夜明けを告げる、天保山の号砲一発が轟いて、158年が経過した。

312 島津家の 御馬印の一本杉

石碑の上に直く立ち

眠りを醒す激戦の 苔むす石垣見守りて
錦江湾と桜島 更に彼方の大海望む

目に見えぬ 遥か未来を眺めつつ

耳に聞こえぬ 新しき 時代の波の音を
聴く

波高し 天また崇^{たか}し 薩摩湯

天に伸びよ 一本の杉

（宗博）